

平成30年度 第1回富士市総合教育会議

会 議 録

開催日

平成30年7月20日 金曜日

開 会 15時00分

閉 会 16時15分

会議場

市庁舎8階 政策会議室

出席者の氏名

市 長

小長井 義 正

教育委員

吉 川 智 子

教 育 長

山 田 幸 男

教育委員

和久田 恵 子

教育長職務代理者

毛 涯 晋

教育委員

篠 原 均

出席職員等の氏名

教育次長

畔 柳 昭 宏

教育総務課調整主幹

小長谷 聡

教育総務課長

高 柳 浩 正

教育総務課参事補

若 林 努

学校教育課長

太 田 桂

教育総務課主幹

清 聡 美

学務課長

影 島 統 子

教育総務課指導主事

五十嵐 崇 人

社会教育課長

押 見 賢 二

教育総務課指導主事

太 田 堅 一朗

中央図書館長

加 藤 豊 裕

富士市立高校教頭

白 石 実 里

富士市立高等学校長

岩 田 享

富士市立高校教務課長

山 本 哲 也

富士市立高校事務長

味 岡 俊 雄

富士市立高校キャリア支援課長

石 原 誠

教育研修・特別支援教育センター所長

和 田 精 吾

富士市立高校統括主幹

前 田 勝 己

青少年相談センター所長

増 田 良 夫

傍聴人3名

議題（動議）及び議事の概要

（議 案）

議第1号 魅力あふれる市立高校のために

開会

教育次長

これより、第1回総合教育会議を開会する。
開会にあたり、小長井市長からご挨拶をいただく。

市長あいさつ

市長

こんにちは。

教育委員の皆様方には、お忙しい中また暑い中ご出席いただき、誠に感謝申し上げます。また、傍聴にいらっしゃった方々に対しても感謝申し上げます。

今回の議題としている富士市立高等学校は、昭和36年に吉原市立商業高等学校として設置され、昭和41年合併に伴い富士市立吉原商業高等学校となり、その後平成23年に富士市立高等学校に名称を変更するとともに3つの探究科を有し、現在に至っている。市立高校は、郷土愛を胸に夢の実現にチャレンジし、様々な世界で活躍する若者の育成を目指し、地域に開かれたコミュニティハイスクールとして市民の皆様にとって身近な存在である。また特色ある学習活動として、課題解決力・コミュニケーション力・表現力等を高める課題解決型学習「究タイム」を取り入れており、これまでも「市役所プラン」等で多くの生徒さんが地域の一員として活躍をしていただいている。

本日の総合教育会議では、市立高校生が様々な世界でより活躍するための力を育成するためにはどうしたらよいか、市立高校が今まで以上により魅力的で特色のある学校となるためにはどうしたらよいか、様々な視点でご検討いただき忌憚のないご意見を伺って、活発な意見交換を行っていききたい。

教育次長

本日の議題は、「魅力あふれる市立高校のために」である。
これより、議事の進行は本会の主宰者である小長井市長にお願いする。

「議第1号 魅力あふれる市立高校のために」

市長

それではこれから私が進行をさせていただく。早速議事に移るのでよろしくお願ひしたい。議第1号「魅力あふれる市立高校のために」を取り上げる。富士市立高等学校がこれまで以上に魅力あふれる学校として発展していくために、今後どのような視点が必要か検討したい。まず意見交換の前に富士市立高校から学校の取組について報告をお願いする。

事務局

「魅力あふれる市立高校のために」資料に基づき説明

市長

一括して説明していただいた。このあとの進め方は皆さんからいろいろご意見を出していただいてもよいのだが、様々な方面に飛んでしまう可能性があるのも、確認の意味をこめて1から9まで番号が振ってあるので、1から順に内容を確認しご意見やご質問があれば伺いながら、最終的に本日の目的である「魅力あふれる市立高校のために」ということをご提言いただければよいかと思っている。よろしくお願ひしたい。

繰り返しになるかもしれないが、資料の1「富士市立高等学校のコンセプト」の(1)から(3)に関して改めて確認したいことはあるか。

2の「入学状況について」だが、30年度は入学状況がよかった。資料の9ページにあるように富士・富士宮地区の全体の様子を見ても厳しい状況の学校もあるが、市立高校が倍率1を超えている。

教育長

さきほど説明があったが、学校運営協議会が高等学校では県内で1つしかないということである。運営協議会の中で印象に残っていることは、もっと広報に力を入れて市民の皆さん方にアピールしたらどうかという意見が出たことである。そうした中で、市立高校の教職員も本日来てくださっているが、先生方もがんばっていただき中学校訪問をしたり、いろいろな場で市立高校をアピールしていただいた結果、こうした数字が出てきたと思う。ただ、生徒の数が年々減少しているのでこの数字が続いていくのかもう少し様子を見ていかないとならない。いずれにしろがんばっていただいている。

市長

先ほどコミュニティハイスクールの説明があったが、学校運営協議会については8に書いてあるのでそこで詳しく議論したいと思っている。このような今回の入学状況であったということを踏まえていただければ。この点はよろしいか。

教育委員

説明の中で、厳しいことを言うようだが、30年度が良い数字になっている。30年度が特別に中学生が増えたわけではない。学校運営協議会について事務長から説明があったが、そのような施策を取ったことが、要因の割合が高いのか。高いならば31年度は子供が減っていくが、これに近い数字が確保できるのか。予想されていると思うが、そういう見方をしているのか。

もうひとつ、男女比はどうなっているのか。これがすべてではないが女性の人口が多いから、女性が来てくれるような学校経営を目指すことも選択肢か。そのために何をどうするのか私からは申しあげられないが。

事務局

男女比については、今年の1年生は男子が約45%、女子が約55%。2、3年生は女子の方が多くて、女子が60%弱である。

市長

7ページのところで、中学3年生は富士・富士宮の数字で今年と比べると-61ということか。

事務局

昨年の数字と今年の5月1日を比べているので、実施にはもう少し開きがある。途中経過がわからないが、もっと減っているようである。

市長

今年並みの生徒数を確保するのであれば、さらなる活動が求められているということである。

教育長

3学科ある中で、毎年傾向としてビジネス探究科が厳しい状況にある。いろいろ分析していく必要がある。

教育委員

ビジネス探究科について先程から見ていたが、昔の商業科の流れを汲んでいるカリキュラムが高くなっている。探究の海外研修も、ビジネス探究科については魅力に欠けるところがあると感じる。今どきにシリコンバレーに行くと、アップル、インテル、アマゾン、ヒューレットパカード、フェイスブックというような会社を見学できる。そういう所のビジネスと捉えて、生産管理にしても原価管理にしても、システムですべて動いているのでそちらの方にシフトしていくという発想を持つのも魅力をつける上では必要なのではないかと感じる。5ページに台湾森永等書いてあるが、そこを見に行くことよりも私は先程言った様な先進のITを見に行き、生産管理や原価管理を行っているので、結び付けていく方法もあるのではないかと。

市長

学科の魅力を高めることによって、進学希望を増やしていくと。それについて何かあるか。

事務局

新しくできた学校案内の8ページがビジネス探究科のページである。中央にシステム管理というわけではいかないが、JALと連携している。JALの本部に入りJA

Lの経営スタッフと一緒に、JALが破綻してからの立ち上げから黒字に持っていったマネージメントと一緒に学んでいる。また、2年生で地域とのグローバル連携セミナーで商品開発を行っている。2, 3年生は一番上の写真だが、一番大きいといわれている東京を本拠地としている会社の会計監査法人にも入っている。県内の学校の中では先進的なことを行っている。これだけ動くのは費用がかかるため、いろいろなことをやりたいが許す範囲でということである。

市長

目的地の話が出たが、実際に行かれる生徒さんの台湾の満足度はどうなっているか。

事務局

台湾は91%の満足度がある。

市長

より魅力のある研修先だけではなく授業づくりやカリキュラムについて、一つの例として出していただいた。

教育長

スポーツ探究科が、ドイツからオーストラリアに変更になった。必ずしもコンプライートされているのではなく、台湾よりもっといいところがあれば変更の可能性もある。ドイツがオーストラリアに変わった理由を説明してほしい。

事務局

今の3年生が2年生のときに、オーストラリアのゴールドコーストになった。その前はオランダとドイツであった。3年前にヨーロッパでテロが起き、非常に危険な状況であり、一部の保護者からも心配する声があった。地域スポーツを通した街づくりについて歴史が深いということで、スポーツ探究科が訪れていた。

アメリカのカリフォルニア、もう一つはオーストラリアのゴールドコーストがドイツ・オランダに匹敵する。スポーツ探究科の原点は、地域スポーツ、スポーツを通した街づくりであり、ドイツ・オランダよりも良かったと訪れた教員が言っている。ボート等の海を利用したスポーツが勉強でき、サッカーなどの球技も盛んである。訪問先を変えてみたら、そちらの方が良かったということである。

先程教育長が、時代の流れをにらんで行き先を変えていくということであった。本校は学校の交流、アジアの商業経済のハブが台湾にあり、英語にも力をいれているが、英語をベースに台湾の高校生や企業とアジアの躍動している経済を学ぶ目的で台湾を選んでいる。

市長

幅広く入学生を確保するにはどうしたらよいか、学校の魅力作りについてお話いた

だいた。次に生徒の進路状況のグラフについて何かご意見はあるか。

教育委員

格差社会ということで、親御さんの方で収入の問題で進学をあきらめるようなケースが多くなってきているのではないかというイメージがある。そのあたりは高校として何か考えや対策があるのか。

事務局

いざ進学するときに、直前で私学に進学するための資金がないということがある。国とか企業が行う奨学金があり、そのような奨学金について学校で紹介しながら、進路を進めているところである。経済的な事で、本校のコンセプトである「ドリカムハイスクール」夢を叶えたい、進学したいという子達の夢を実現するようにしたいと考えている。

事務局

家庭の経済的な問題が進学に影響があることについては、事務局から申し上げたとおり、そういった話をする家庭も少なくないと思う。週明けから他校もそうであるが三者面談が行われる。担任から三者面談の様子を伺うと、この子は長男だが下に2人弟がいるので、経済的な部分を踏まえて進路を考えているというような話も聞く。市も含めての奨学金、また支援機構の奨学金もある。その生徒の学力、将来に向けての展望というものを中心にできるだけ実現するよう学校は働きかけている。とくに3年生についてはその部分が切実な問題となるので、教務課という学校内の部署の担当者が丁寧に奨学金の申請等について指導している。生徒本人の現時点での学力と家庭の方向性についてできるだけよりよい働きかけを行っている。

教育委員

深刻な問題でもあるということか。市の方で何かできることがあれば応援していただきたい。

教育委員

ビジネス探究科の専門カリキュラムの時間と、スポーツ探究科のスポーツに関するカリキュラムについて、四年制大学進学者数の違いは何か。ビジネス探究科はビジネス情報、ビジネス基礎、マーケティングなどの他は、世界史、英語等になっている。スポーツ探究科はスポーツの授業がこれだけあるが、四年制大学が53%である。ビジネス探究科は専門の授業が少ないにもかかわらず四年制大学28%と低く、就職が多い。これはどういうことなのか。ビジネス探究科はビジネスに関連した授業を行うのがビジネス探究科と解釈しているが、カリキュラムを見ると進学に関わる授業が多い。また進路も就職と専門学校で7割弱である。この違いはどういう風に考えればよいか。

事務局

ビジネス探究科については、23年4月に開校したとき3学科とも大学進学できるカリキュラムでスタートした経緯がある。本校では卒業までに1年生32単位、2年生32単位、3年生32単位で計96単位学ぶことになる。文部科学省の縛りで必修科目として履修しないと卒業できないものが、各教科にある。これは卒業の条件ですから減らすことができない。それに大学進学や大学入試に困らないようにやや国語、数学、社会、理科、英語の単位が少し手厚くなっている。スポーツ探究科についてもほとんど似ているが、スポーツ探究科は男子が8割がた、85%である。とくにスポーツ探究科は3年間で特別な資格が取れる学科ではない。英語検定や漢字検定は別として、体育科としての特殊なものはない。就職が少なく、大学とくに体育大学に進学していく。ビジネス探究科はこの専門科目の中でも全商簿記1級や情報処理1級、ビジネス検定など就職して困らないような資格をたくさん取る。吉原商業の流れもあり、ビジネス探究科は入学時点で卒業後は就職をするという強い意志がある子がかかなりいる。ビジネス探究科は大学進学を目指す商業科として作られたので、若干進学のための5教科が多くなっている。

教育委員

特徴としてビジネス探究科は、スポーツ探究科と比べて何らかの資格を取るチャンスのある授業があるから、就職が多いのか。さきほど教育長がおっしゃったように、ビジネス探究科は来年度募集が厳しいとなったとき、今みたいな資格さえ取ればという学科で来てくれれば良いが、そのようなライバル校が他にもあるのでその点がどうかと思った。

市長

進路の状況については以上でよろしいか。次に部活動について何かご意見はあるか。野球も勝っていますし。

教育長

先だっても表敬においでいただいたが、勝ち負けは当然あるが、子供さんが部活を通して育っている気がする。非常に態度が立派で、立ち振る舞いも以前と比べて部活動を通して育っていると感じている。その点は学校のご指導のおかげで、ありがたいことである。時々学校に行ってもよく挨拶をしてくれる。

市長

資料で、生徒の部活動の満足度が高かったと思う。非常に良いと感じた。

教育委員

33種目の部活動があつて中には1人しかいないところもあるが、他の高校はこの位の部活動数なのか。部活動数は、生徒会は別として32か。

事務局

本校は生徒会も、生徒会部という部活である。県下で本校だけかと思う。人数も多い。23年4月に開校したとき、新しいコンセプトで作った部活動もあり、その時に無くした部活動もある。例えばクイズ研究会は開校したときに作ったが、テレビのウルトラクイズに出て学校や市の名声を高めようという目的だった。地域活性研究部はコミュニティハイスクールとの関係であり、文化部が極めて多いように感じる。運動部については他の高校と違いは少ないが、チアリーダーはめずらしい。ゴルフは人数が少ないが、伊豆半島にゴルフ部があるが富士富士宮地区ではほとんどなく、珍しい部活である。基本的に文化部に面白い部活が置かれている。

教育委員

ちなみに、生徒会部は何を活動しているのか。

事務局

他の県立高校の生徒会とは変わらないが、本校の場合は事務長からの冒頭の説明にもあったが、主体的にということ、例えば野球応援や文化祭、体育大会の運営を行っている。コミュニティハイスクールとしての外の行事、中の行事も含め、生徒会が行っている。今日の終業式の舞台袖にも生徒会が15、6人つめていて、表彰状を渡すときにそばにいて私を介助してくれたり、生徒の難しい名前を付箋でつけてくれたりと、式典等の計画から実施まで生徒が行っている。

市長

次に、先程話題になった海外探究研修についてはよろしいか。

次の項目の地域交流事業について、なにかご質問等あるか。こういうのは他校と比べて市立高校の特徴なのか。

事務局

地域交流課は23年の4月に開校し、コミュニティハイスクールということで全国でも県でも始めて作った課になる。教務課や進路課と対等な地域交流課というものを本校独自なものとして立ち上げている。県立高校では、このように多くのイベントを地域の方を巻き込んで行っている学校はないが、県立高校で言うと総務課が担当している。今の学習指導要領でも地域との連携が示されているが、高校は基本的に敷居が高く、敷居を低くして地域との連携を行い、臨場感をもって地域の方々と教育活動をやりなさいと文科省からの学習指導要領で示されている。本校の3本柱の一つであるコミュニティハイスクールでは、県立高校と同じような総務課ではできないということで、地域交流課を独自に立ち上げたから、これだけのものができている。保育園や幼稚園の子供たちが体育大会に来て、NPO法人のサッカーにもたくさん来ていただいている。

教育委員

生徒さんが外に出て行ってくださり、いろいろなことをしてくださっていて、私自身はうれしいなと思っている。しかし、市立高校自体をよく知らないという市民も多い。サッカー場もすばらしいし、うちの子もやってみたいという声があるが、なかなか行ける機会がない。足を運んでも良い事業や日、老若男女お年寄りまで、そういう日や行事があると良いなと思う。チアリーダーもいろいろな地域でやってくださり、地域の方もすごいすごいと言ってくくださるが、どんな高校か分からない。見てみたいという方が多いので、せっかくですからそういう機会があったらいいなと思う。

事務局

本校では、例えばナイトウォークのように近所の子どもたちを呼んだり、お化け屋敷ですがそういった事業を行ったりとか、他世代交流サッカーのようにいつでも歓迎の状態で行っている。知名度が低いというのはそうかもしれないので、検討させていただきたい。

教育長

委員が言われたことは、私は大事なことだと思っている。誤解を恐れずに言えば、市立高校が必要かどうかという議論のときに、コミュニティスクールも含めて地域交流事業を一つの柱にしていくことによって、市立高校と富士市の市民の皆さんが自分たちの学校だということで、学校を盛り上げてくださる。先生方も本当に大変かと思う。進路指導もやり地域との交流もあるので。地域との距離を縮めて、学校運営協議会を中心にしながら、市立の学校を作っていくという機運が、委員がおっしゃったことを含めて、高まっていくのではと思う。学校が市の中心にあれば行きやすいが、東によっているので交通的に大変ではあるが、もっともっとアピールしていけば、もっと来るようになるのではと思う。よろしくお願ひしたい。

市長

時間の関係もあるので、次にいかせていただく。これは市立高校の売りでもありませんが、究タイムについてである。ご意見があればお願ひしたい。

教育長

市役所への就職する子はどのくらいか。

事務局

消防とかに入ったりはあるが、高校から直接市役所に入れば把握できるが、一旦進学してから入る場合はこちらにはわからない。市役所に入ったものが居るようである。今年公務員が7名いたが、他市や警察官、消防、自衛官等で、富士市はいなかった。

教育長

せっかくこうやって勉強してくれているので、大学に行ってからこちらへ来てくれ

る生徒が増えると良いと思っている。

事務局

本校の生徒は探究で発表をやっている関係もあり、非常に面接が上手だった印象がある。人前できちんと答えていたという印象だ。

市長

8番目の学校運営協議会については、先程市高だよりの発行で積極的に外へと発信していくようになったと中学から高校にあがるときの関心をもってもらっているという話であった。高校では県内でもコミュニティハイスクールはここだけか。

事務局

県立高校、特別支援学校含め本校だけである。県内他市の高校から、学校運営協議会を検討していて、資料が欲しいということがあった。

市長

いろいろご意見を出していただいているということか、委員の皆さんから。

事務局

厳しい意見もあるが、最終的には本校の応援団であるということで、委員の方は。本校は課長、主任すべて学校運営協議会に参加させており、管理職だけが厳しいご意見を聞くのではなく、ミドルリーダーにも聞いてもらっている。

市長

9番目の課題事項について、4項目挙げていただいているが、一点目は少子化ということもある。皆さんからご意見はあるか。

教育委員

ここに書かれているとおり、人口減少や少子化は止められない状況にあり、富士市でも今の一年生は362名減ってくるということで、減ってきた中学校卒業生の取り合いになってくる。そうなってきた場合にどれだけ本気に今ある課題をクリアしていくかと、どれだけ新しく進化していくかが重要である。これは企業と一緒にですが、企業も募集人員を出して、うちの会社に来て欲しいと人材を確保していかなければならず、PRの仕方等もしっかりしていけないと届かない。さきほど市立高校のホームページを見させていただいたが、つまらない、申し訳ないが。もうちょっとビジネス探究とか新しいことをやっているのであれば、見せ方ももう少し面白くやっていかないと、厳しいのではないかと。今はフェイスブックとかインスタグラムとかを企業でやっており、企業から毎日インスタグラムにきれいな写真をあげているところもある。そういうのをを使うのが難しいかもしれないが、もう少しPRをしていく方向を考えていかなければと思う。先程地域についてあったが、富士市内だけにPRをするならば

地域でやっていることをアピールしていけばよいが、他県や他地域からも呼んでこないといけないという状況になっていく。1年生は、市内が186名、市外が61名ですよね、ふじの教育のところにあります。市外の方が少ないのは当たり前だが、市内の人数が減っていく中で他地域から確保していくには、広域で発信をしていかないといけないのではと感じている。

市長

市のシティプロモーション課も苦勞して行っているが、そういうのを参考にさせていただいても良いかと思う。

事務局

ホームページは昨年リニューアルした。三年前の学校運営協議会で面白くないという意見があり知恵を絞って昨年変えたが、私学と比べるとわくわく感はないなと思う。お金をどれだけかけるか、動画をどれだけ入れるかなど、企業に委託すればいいのだが。学校運営協議会でも毎回この話題で、いかにアピールしていくのか情報発信していくのかということをいつも言われているところだ。おっしゃるとおり、おもしろいなどわくわく感が出るようにしていきたい。

教育委員

究タイムは課題解決のチームで、これは格好の課題解決である。生徒にやってもらうというのでもいいアイデアが出てくるのではないか。

教育長

ホームページの問題は小中学校も同じである。学校によってすごくアクセスが多いところと少ないところがある。堪能な先生に頼っている状況がある。

市長

部活動でもよいし、そういうことに長けている生徒がいるのでは。高校生だからできそうだが、生徒会でやってもよいし。

教育委員

スマホ版はあるのか。

事務局

生徒はスマホでは見ているが、スマホで見ると形が変わってしまう。

教育委員

世の中ではスマホ版でもつくっている。

教育長

委員に一度やってもらえばよいのでは。企業とどう違うのか。

市長

市内から外へと広く伝わっていき、市立高校の魅力が伝われば、外から市立高校で学んでみたいという生徒が増えるかもしれない。

教育長

私がお願いしたことでもあるのだが、10年を迎えるにあたり今言ったことも含めて、論点整理をしっかりとどういう課題があるのか、それを解決するにはどうしたらいいのか、外部からしかるべき人に入ってもらって、まずは内部でしっかりと検討してもらい、検証していく時期に差し掛かりつつある。今日のご意見も含めてぜひ教育委員会と一緒にやっていければと思う。

教育委員

初期投資がかかっても、対象人数が多いので多少お金をかけても投資効率がいい。企業はなぜそこにお金をかけるかといえば、投資効率が良いからだ。いろいろな人が見てくれば見るのはただであるから、委員が言うように見たいと思うホームページはたくさんある。プロのホームページを作る人でもよいが、生徒がつくるホームページという発想もいいのかと思う。手作りならば初期投資もいらぬし勉強にもなる。

市長

先程教育長から32年度に10年目を迎え、学習指導要領などのテーマもあります。形として打ち出すことも。

教育長

32年からですが、教育課程はその前までに学校の改革の方向性を示していかなければならない。教育課程が作れないので。

市長

どういう風に今後すすめていくのか。先程第三者という話もあったが。

教育長

今の状況を説明していただきたい。

事務局

改革実施計画の見直しについては昨年度から行っており、課題事項の抽出をしている。現在は内部で管理職を中心に検討している。検討していても難しい部分は、新しい学習指導要領とぶつかってしまうことだ。そこがどういう風になるかによって考

えていることが逆のことだったということもありうるので、学習指導要領がはっきり説明される今年の12月からスタートして課題を抽出し、どうしていくか検討し、先程も説明したが来年の11月くらいまでに県に新しいカリキュラムを提出しなければならないということもあり、本年度中に課題を抽出してどうやっていくかをそれまでに検討していくというスケジュールでやっていく。期間としては1年くらいしかなくスピーディーにやっていかないといけない。

事務局

学習指導要領とは別に、皆さんもお聞きになっているかと思うが、私たちの時代は共通一次で、今はセンター試験で、これが廃止されこれから大学入学共通テストになる。今の高校一年生からこのセンター試験が廃止され、大幅に入試制度が変更され、できるだけ顔の見える入試になるがまだ全貌が見えていない。学習指導要領と別の問題である。もう一年ぐらいするとかなりはっきり分かってくると思う。学習指導要領の変更を見て、一年生のセンター試験がなくなり顔の見える入試を国公立大学が行うことにより、公立の看護専門、短大の入試制度も次いで変わるので、高校一年生の入試制度、新学習指導要領がどう示されるか戦々恐々としている。

市長

いろいろな要因が絡んでくるというお話だった。よろしくお願ひしたい。

これまでいろいろ皆さんからご意見、ご提言をいただいた。今後の市立高校のあり方、10周年を見据えてさらに魅力ある市立高校のために様々なご意見をいただいた。今後の運営に大いに役立てていただきたい。

私から事務局に進行をお返しする。

教育次長

以上をもって本年度第1回目の総合教育会議を終了する。

「閉会」